

2025 年 2 月 20 日

獣医学ユニット長

佐々木 基樹 先生

帯広畜産大学 獣医学ユニット

QA 委員会

共同獣医学課程の教育改善に関する提言（2024（R6）年度）

平素より教育活動の質向上にご尽力いただきありがとうございます。下記のとおり、Quality Assurance 委員会として共同獣医学課程における教育改善に関する提言をまとめました。つきましては、本提言内容について対応をご検討くださいますようお願い申し上げます。

【提言事項】

1. 2024 年度に実施した卒業生就職先アンケート結果から、獣医師の知識・技能だけでなくコミュニケーション能力や課題発見や解決に向けた主体性や向上心を持つ人材の育成が必要と考えられた。これに対する対応を検討する。
2. 2023 年度に引き続き、多くの教員が希望する「研究へのエフォート配分の増加」に向けた改善策を検討する。

以上

2025 年 2 月 22 日

帯広畜産大学獣医学ユニット

QA 委員会 御中

獣医学ユニット長

佐々木 基樹

共同獣医学課程の教育改善に関する提言に対する回答（2024（R6）年度）

貴委員会より 2025 年 2 月 20 日付でいただいた「共同獣医学課程の教育改善に関する提言」について、下記のとおり対応および今後の取組方針を報告いたします。

【提言事項と対応状況】

1. 2024 年度に実施した卒業生就職先アンケート結果から、獣医師の知識・技能だけでなくコミュニケーション能力や課題発見や解決に向けた主体性や向上心を持つ人材の育成が必要と考えられた。これに対する対応を検討する。

回答：EAEVE の GA 等においても、学生のソフトスキルの教育が重視されていることが窺い知れ、これに対する対応は今後重要と考える。2025 年度からアドバンスト演習を GPA とキャップ制から外し、多くの科目を選択することができるようにすることで、主体性や向上心を持つ人材の育成を促進する予定でいる。

2. 2023 年度に引き続き、多くの教員が希望する「研究へのエフォート配分の増加」に向けた改善策を検討する。

回答：2024 年度の対応状況を以下にまとめる。

1. リソースの増加：

・教員・事務・関連スタッフの増員…大学として、子育て世代への研究支援員の配置、生抜きキャリアパス制度、そして部門ごとの女性教員上位職枠による採用などを引き続き実施中。獣医学研究部門として、動物医療センターの専任獣医師の公募を継続中。今後は応募の増加を図る対策を考える必要がある。

・外部臨床機関の獣医師との連携…現在、産業動物の教育では NOSAI 北海道十勝と、馬臨床の教育ではばんえい競馬場内の診療所（ばんえいクリニック、アテナ統合獣医ケア Ban'ei 競走馬診療所）、および社台ホースクリニックとの連携を継続している。また、NOSAI 北海道との包括連携協定なども視野に入れている。

2. 管理運営業務の低減：

事務的業務の委譲、事務との一体化による業務効率化…教務課内に共同獣医・大学院係が設けられたほか、国際認証推進室にも事務のスタッフが入っており、事務的な業務を分担し、業務の効率化が着実に進んでいる。

3. 教育業務の低減：

相互提供科目のあり方の検討…教員の移動を伴わない形での講義の実施について検討が行われ、2024 年度は後期に試験的に実施、2025 年度は年度を通して実施する予定。

4. 研究活動の増加：

・研究室配属の 4 年前期への移行が現在検討されているほか、アドバンスト演習の 4 年生での早期履修が 2025 年度より正式な履修可能になる。

・部門活性化経費において、研究を活性化するために「論文掲載料補助」、「英文校閲補助」、「専門書購入補助」、「実験消耗品補助」といった研究助成を実施し、来年度も継続する予定。

以上